

肝腫瘍に対する治療効果及び予後の後ろ向き調査

研究の意義・目的

肝腫瘍の診断と治療後の経過を後ろ向きに調査し、生存期間との関連を検証することで、肝腫瘍における治療法と予後の変遷を明らかにし、実診療に則した診断および治療アルゴリズムの構築を目的とします。

研究方法

近畿大学医学部附属病院・消化器内科にて肝腫瘍と診断された各症例における血液生化学的検査、画像検査、組織型などを既存のカルテ記録をもとに収集し、生存期間を調査します。治療時点での検査結果の情報をもとに症例を層別化し、生存期間と対比させることで最適な治療時期や治療法を求めます。症例の層別化にはクラスター解析、対応分析等を用い、生存期間との関連にはKaplan-Meyer法、ロジスティック回帰分析等を用います。

研究期間

1999年4月1日から2015年11月1日まで。

研究機関

近畿大学医学部消化器内科学教室

個人情報の取り扱いについて

氏名、生年月日、住所などの個人情報に関わるデータは一切使用致しません。

この研究は近畿大学医学部臨床倫理委員会の審査・承認を得ています。

説明を希望される方は下記にご連絡下さい。また、本研究に対して診療情報の提供を望まれない方はお申し出下さい。なお、その申し出により今後の診療等に不利益が生じることはありません。

<研究責任者>

近畿大学医学部消化器内科学教室

南 康範

TEL: 072-366-0221 (内線: 3525)